

令和7年4月30日

TEL・FAX 0954-66-3113

発行責任者 江口 常雄

き ず な

す 住 み よ い げん き な みどり 緑 の さと おお くさ の 郷 大 草 野

令和7年度 総 会 開催(4月20日:日)

コロナ禍が落ち着いた昨年から総会を再開しています。再開を機に、参加していただく方の安全を考えて、夜ではなく、日曜日の午前中に行っています。4月の日曜日なので、行事が重複することもあるかと思いますが、皆様のご理解を得て開催していけたらと思います。

代議員実数 49名、出席者数19名、委任状提出者数26名、欠席者4名で、規約上、有効な出席数が得られ総会が成立しました。

昨年の総会と同じく、議長を益世会会長の田中均様にお願いをして、たいへんスムーズに進行していただき、所要時間45分程度で5つの議案、すべて承認していただきました。

昨年度の目玉として、SAGA2024の開催に伴う嬉野市との連携事業がありましたが、市長は、挨拶の中で「大草野コミュニティのみゆき通りでのかかし祭りの開催は、大変素晴らしいおもてなしになりました。」と感謝とお

褒めの言葉をいただきました。第3号議案で、役員改選を提案していましたが、それも承認していただき、下記の一覧表のとおりとなりました。新任の香田会長を先頭にして役員が一致団結して、一生懸命に事業推進に努めてまいりますので、ご協力をお願いいたします。今後の地域コミュニティの課題として、これまで以上に地域に必要とされたり、存在価値を備えた団体になるためには、もう少し行政的な内容の取り組みも考えていかねばならないかも知れません。これからの超高齢化社会の中での地域コミュニティの在り方を市からのバックアップや新しい事業展開の模索など、来賓として出席していただいた市長にお願いも致しました。いずれにいたしましても7年度も、よろしくお願いいたします。

<令和7年度 役員>

役 職	氏 名	行政区
会 長	香田 正人	式 浪
副会長	馬場 弘和	南 下
々	淵 幸代	南 上
会 計	田中 憲司	辺 田
監 事	淵野 春義	式 浪
々	江口 和味	角ノ谷
顧 問	宮崎 政明	式 浪
々	田中五百喜	万 才



嬉野温泉新幹線駅 ボランティア清掃のお知らせ

5月25日(日曜日) 10:00~...駅西側の広場に 9:45までに集合

◎この日のコミュニティの清掃担当部会は、

総務・広報部会 と 健康福祉部会 の部会員の皆さんです。

※コミュニティの部会員以外の方で、ボランティア清掃に参加を希望して
いただく方は、5月20日(火)までに下記へご連絡ください。

記

大草野地区地域コミュニティセンター事務局 ☎ 0954-66-3113

令和7年度 防災広場 第1回目の除草作業 4月26日(土)



今年は、寒い日が多かったせいかな昨年よりも2週間ほど遅い第1回目の草刈りになりました。それでもなお、例年より雑草の背丈が低いようです。それに比べて、ホタル人工池の方はもう例年と変わらない程度に大きくなっていました。この日は、年度当初で行事が重なり、いつもより若干少ない7人の参加でしたが、もう皆さんベテランばかりなので、8時15分頃から始めて、途中休憩を入れても10時30分過ぎには終了しました。この防災広場草刈隊も、令和2年に初め



た頃は、役員中心に7~8人で行っていましたが、現在の草刈隊登録者は17名になりました。

それでも70歳以上が多いので、色々と身体上の差し障りが出てきますので、60歳代の若い方(?)の登録もお願いしたいと思います。年間6~7回程度の作業ですが、都合がつくときの参加で構いません、我こそは、と思う方、隊員登録をお願いします。現在、時給1,000円で行っています。水分補給も、コミュニティで用意しています。事務局までご連絡を!

へへ編集後記< >『地域コミュニティの可能性』

大草野コミュニティが平成二十一年七月に設立されてから十六年目に入っています。地域コミュニティの事業は、全て市からの交付金で賄われています。地域を分ける単位は色々あるのですが、嬉野市ではコミュニティの単位を小学校区としています。それは、様々な活動を行うのにちょうど都合の良い広さであり、小学校と言う子どもが集う拠点があり、その拠点は保護者も集まるというところからでもあります。これまで、それぞれの地域の特徴を生かした、そして地域に必要な多くの事業が行われてきたと思います。ただ、十五年が経過して、「これからますますこのままでいいのか?」と考えた時に、地域コミュニティの持つ特性や有為性をまだまだ生かし切っていないな、と感じています。人言えば、遊びが大好きな小学校低学年くらいの子の発達段階ではないかと思えます。「地域のこと」は地域で行うという趣旨で設立されたのであれば、今行っていることが山外にやらなければいけないことが山ほどあります。しかし現在の体制では限界があるので、「市が地域コミュニティをどう生かしたいと思っているのか?」ということが一番肝心なことだと思っています。高齢者や子どもも見守り、輸送など可能な事業は幾らでもあります。「やりたいこと」だけでなく、「地域に必要欠くべからざることをやる」という発達段階へとそろそろ成長してもいい頃かも知れません。みなさん、いかがでしょうか?